



愛知陸協広報

第44号

平成30年3月31日発行

一般財団法人 愛知陸上競技協会

〒460-0012 名古屋市中区千代田二丁目19番16号千代田ビル7F

電話 (052) 249-4363 ファックス (052) 249-4366

ホームページ: url <http://www.aichi-rk.jp/>

平成29年度を振り返って

専務理事 稲垣 裕

平成29年度は、競技登録会員数が21,679名（前年度比106名増）と、全国トップクラスの会員数を誇る中、愛知陸協は年間約60の主催・共催競技会に携わりました。

運営面では、各専門委員会の積極的な取り組みにより協会の活性化が図られ、会員数の増加にも多大なるご尽力をいただきました。会員の中には若い有望なアスリートが多く、各年代ともバランスのとれた活躍を見せてくれました。

まず、全国小学生陸上では、田島七里香選手（TSM）が女子80mHで大会新での優勝。全日本中学陸上では、女子4×100mRで竜海中が優勝。鈴木大河選手（扇台中）が男子110mHで優勝。インターハイでは、中京大中京高が女子4×100mRで高校歴代4位の好成績で優勝しました。インターカレッジでは、鈴木康太選手（中京大）が男子棒高跳で、小林沙矢香選手（愛教大）が女子100mHで優勝しました。

また、国内競技にとどまらず、さらにその先の世界に挑み、活躍するアスリートも数多くいます。アジアユース陸上では、井戸アビゲイル風果選手（至学館高）が女子200mで3位入賞。ユニバーシアード陸上では、及川文隆選手（東洋大）が男子20km競歩で3位入賞。アジア陸上選手権では、市川華葉選手（ミズノ）が女子200mで6位入賞に加え、4×100mRでも3位入賞。山口浩勢選手（愛三工業）は、男子3000mSCで5位入賞を果たしました。ロンドン世界選手権陸上男子50km競歩では、丸尾知司選手（愛知製鋼）が5位入賞でした。

彼らの育成、輩出に一生懸命取り組んで来られた指導者の先生方には多くのご苦勞があったかと思います。その労をねぎらって、愛媛国体陸上競技場にて秩父宮章に小島末廣先生（尾張陸協会長）、高校優秀指導者に服部光幸先生（愛知高）、中学優秀指導者に谷口直土先生（御幸山中）が表彰されました。

2年後に迫りました2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会、そして、2026年のアジア大会で活躍する選手の育成にこれからも携わっていただきたいと思います。今後ともよろしくお願ひします。

最後に、名古屋ウィメンズマラソン2018を成功裏に終える事ができほっとしています。大会成功にあたり、650名の審判員に協力していただきました。審判員の方々に感謝いたします。この大会で、MGC（マラソングランドチャンピオンシップ）の出場資格を得た選手の東京オリンピック出場を期待いたします。そして、2018年度はU20・U18日本陸上選手権大会が、愛知での開催が最終年となる9回目となります。2018年度も多くの審判員の方々のご協力が必要です。この多くの会員を支えるべく愛知陸協として、万全の体制で競技運営に取り組んでまいります。

都道府県駅伝 愛知女子 意地の9年連続入賞

1月14日（日）に行なわれた都道府県対抗女子駅伝で、愛知は9年連続の入賞を果たしました。1区32位で始まったレースは、2区藤中佑美選手（光ヶ丘女子高）の12人抜き力走で大きく浮上しました。その後も徐々に順位を押し上げ、アンカーの鷲見梓沙選手が競技場直前で長野を捕えてついに8位に浮上し逃げ切りました（写真）。けがで出場を見送った鈴木亜由子選手から米田監督の携帯に送られたメッセージ「これが愛知の伝統ですね」が、代表選手一人ひとりの気持ちを代弁しています。

（写真提供：中日新聞社）



専門委員会報告

総務委員会

2018年の登録が3月1日から始まりました。

公認の陸上競技大会等に審判員・競技者として参加するためには、愛知陸協に登録し、日本陸上競技連盟の登録会員にならなければなりません。手続きをお願いします。

登録は「登録要項」または、愛知陸協ホームページを参照して行ってください。なお、不明な点は、事務局（電話 052-249-4363）までご連絡ください。その年度の登録申請期間は、3月1日～11月30日（高校は10月31日）までです。

今年度の登録担当者・申請先（転勤等で、担当者の所属先が変わる場合があります）を掲載します。中学生の登録申請先が昨年度までは、「名古屋」のくくりでしたが、今年度からは、「名古屋」と「愛日・知多」に分かれました。

一般団体・個人

名古屋	赤司 学	名古屋市千種区自由ヶ丘2-16-1 シティコーポ自由が丘303
尾張	門脇 良佑	尾北高等学校
西三河	山村 晃泰	刈谷高等学校
東三河	山本 誠司	豊丘高等学校

大学生

全 県	愛知陸協事務局	052-249-4363
-----	---------	--------------

高校生

名古屋北	新美 準人	菊華高等学校
名古屋南	小田垣充雅	名古屋女子大学高等学校
尾張	浜田 倫昌	津島北高等学校
知 多	成田 稔	武豊高等学校
西三河	小野田 基	三好高等学校
東三河	中村 昭広	豊橋工業高等学校

中学生（学校・クラブ・個人）

名古屋	三浦 雅史	豊国中学校
愛日・知多	釜下 隼亮	日進西中学校
尾張	酒井 達哉	宮田中学校
西三河	細井 太郎	奥殿小学校
東三河	岡田 淳史	豊橋・南陽中学校

小学生友の会

名古屋	榊原 聖也	河和中学校
尾張	八代香津子	愛西市勝幡町字後田397-2
西三河	小林 良博	安城東部小学校
東三河	手嶋 修次	NPO 法人蒲郡アスリート コミュニケーションズ

(水野 隆夫)

競技委員会

2017年度シーズンも名古屋ウィメンズマラソンを最後に幕を閉じました。2016年の大きな大会（日本選手権）を無事終え、今年度はちょっと一息できた年でした。多く

の競技役員の方々に協力いただき、無事終わることができました。ありがとうございました。

いよいよ新しいシーズンの幕開けです。2018年度は、U20・U18日本陸上競技選手権が名古屋では最後の開催になる予定です。また、スペシャルオリンピックという全国大会も9月に予定されています。例年の競技会も多くあり、各地区の競技会を合わせると過密日程の1年が始まろうとしています。2026年のアジア大会に向けて、若い審判員の方々に力を付けていただきたいと思います。ベテランの方のご指導の下、愛知陸協全体が力を合わせて行きたいと思っています。是非ご協力をよろしくお願いいたします。

パロマ瑞穂スタジアムの改修が2020年から始まります。具体的な案がまだ無い状態ですが、5年ほど使えないことを想定した競技会内容を、知恵をお借りして今後考えていきたいと思っています。

各競技会に関して要覧に出っていますが、変更があるときもあります。申し込み等は、陸協ホームページで大会要項や競技注意事項をよく確認して間違いのないようにしてください。愛知陸上競技協会では、協会主催の大会において、新ルールの適用を原則としています。しかし一部の大会では、特別なルールを適用する事もあるので大会要項や競技注意事項で確認をしてください。

一年を通して、愛知では国際的、全国的な大会や東海大会から小学生の競技会まで幅広く陸上競技が行なわれています。多くの競技者が出場しそれを支える競技役員、競技補助員によって競技が運営されています。それぞれが協力し合って、競技者がよりよい環境で競技できるようにご協力をお願いします。

(榊原 茂)

施設・用器具委員会

1 検定関係の報告

(1) 穂の国豊橋ハーフ自転車計測検定

12月16日(土)・17日(日)の二日間で、道路コース計測員：福島(A級)桑原(B級)平川(C級)愛知陸協：青木検定員・南技術役員、東三陸協：夏目・兵藤・松山・中村、事務局：石川・白井・水谷・小島・岩崎、中日新聞社：長澤の15名のご協力でチーム豊橋として、「陸王」のロケ撮影の影響で交通量が多く大変でしたが、無事実施できました。仮計測より短い部分は、フィニッシュを工夫して陸上競技場内で調整しました。

(2) 犬山ハーフ一部変更検定

12月23日(日)に、青木検定員と平川・南技術役員、



フィニッシュ地点延長の計測

クラブ紹介③⑧ トライル AC

トライルアスリートクラブ「トライル AC」は、各地域で幼児・小学生の体育・スポーツ指導をする「スポーツクラブ トライル」の専門クラブです。小学生以上を対象に季節に応じて、短距離・長距離の練習を中心に少しでも速く走れるように総合的なトレーニングを行なっています。

トライル AC の目的

- ①スポーツの中で欠かすことのできないスピードを高めます。
- ②動作1つ1つのスピードを向上させます。
- ③コントロール能力を身につけ敏捷性をアップさせます。
- ④素早く判断し、反応し、重心移動速度を向上させます。



はばだけ！未来のアスリートたち！

トライル AC のねらい

スポーツの基本となる「走る、跳ぶ、投げる」ことを中心に、多様な動きを経験しながら運動能力向上を図ることをねらいとしています。

練習日

土曜日練習 / 90 分間【年間 30 回】

練習場所【3ヶ所から選択】

名城公園・豊田フォレストヒルズ【午前】

牧野ヶ池緑地公園【午後】

クラブ員数

現在、3ヶ所で小学1年生以上の約150人が練習しています。

コーチングスタッフ

幼児・小学生の体育・スポーツ指導において経験豊富なコーチングスタッフです。中京大学・至学館大学・兵庫県西脇工業高校陸上競技部OBの8名が楽しく、そして、熱く指導しています。

トライル AC ホームページ

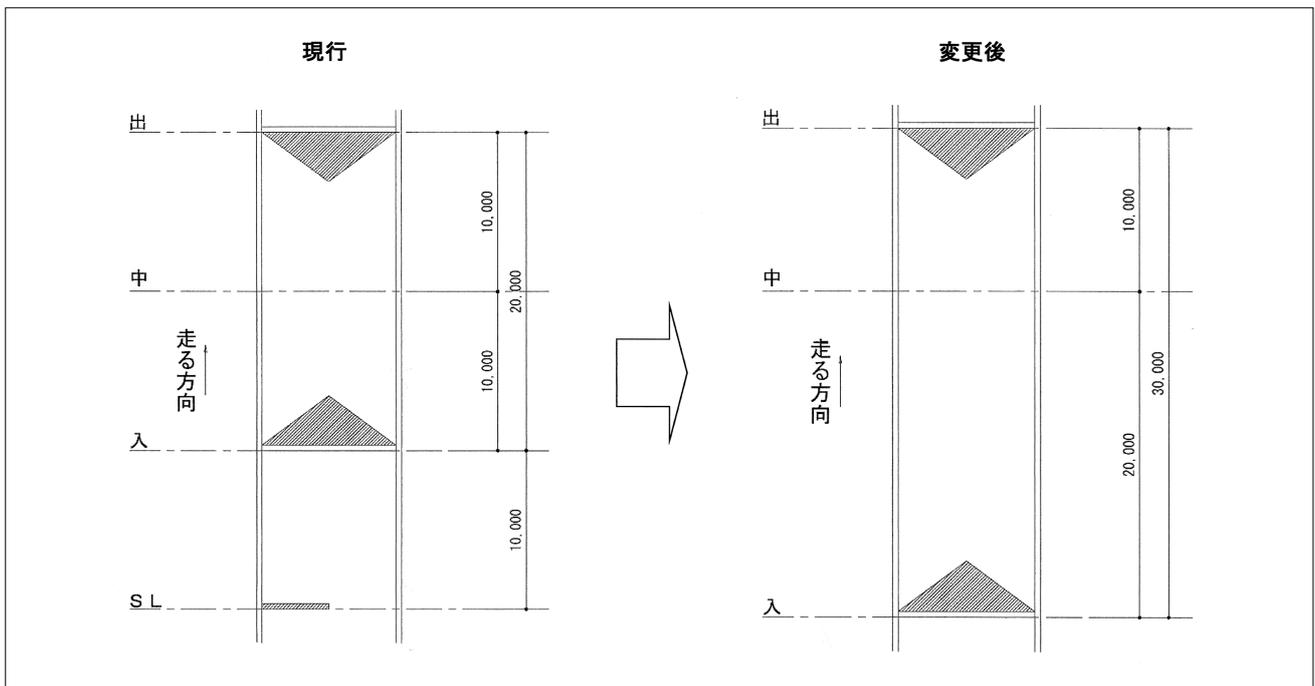
<https://www.tryle.jp/classroom/athlete.php>

問い合わせ／連絡先

スポーツクラブ トライル

TEL：0120-304-065

(小川 泰典)



4 × 100mR のテークオーバーゾーン (JAAF)

尾張陸協：小島・杉山・青山・大西・松井・高木、読売新聞社：小林、犬山市：梅田他2名の13名で、折り返して42m(往復で84m)を短くして、フィニッシュを84m延長して調整しました。折り返しでのランナーの安全走行に配慮したコースになりました。

(3) 豊橋市営第3種陸上競技場一部改造検定

今回は、2016年3月に継続検定した後の一部改造検定です。①Aゾーンの土から全天候舗装に変更②インフィールドを天然芝に変更③走幅跳の踏切板の増設④正面スタン

ド棟の大改修、以上4点を中心に、3月17日(土)に青木検定員と南技術役員が実施しました。これでリニューアルが全て終わって素晴らしい競技場になり、25日穂の国豊橋ハーフマラソン大会がこけら落としとなりました。

(4) パロマ瑞穂北第3種陸上競技場検定

3月23日(金)に青木検定員と平川技術役員が、5年ごとの検定をしました。主な特徴は次の2点です。①消耗が激しい1レーンと(写真①)100m、110mH、リレーのスタート付近の走路のオーバーレイ②バックのグリーン部分



①1レーン等のオーバーレイ



②グリーン部分（バックストレート）の改修を26年ぶりに改修しました。

2 施設用器具関係の2018年度規則修改正についての通知が、日本陸連施設用器具委員会高木委員長名でありましたので、関係する主なものを紹介します。

- (1) インフィールドで投てき実施可能な人工芝の採用については、今までは第4種のみでしたが、条件をクリアできれば、第1、2、3種も認められることになりました。
- (2) テイクオーバーゾーンの位置の変更（別図）によるマーキング位置の変更マーキング、標識タイルの修正は検定時に行なう。修正ができていない競技場では、大会ごとに白線を貼って対応する。

* 選手・審判が間違わないように、検定が昨年終わった競技場では、次回の検定まで長いので、地元陸上競技協会でも早期に所有者に予算化をお願いして対応してください。

- ① 2017年度検定時に対応の競技場
瑞穂北陸：～2018.3.31（公認期間）
豊橋：～2021.3.15（2019.3一部改造検定時に変更）
至学館大学：～2018.5.13
- ② 2017年度中に対応を要望中の競技場
瑞穂本陸：～2019.3.31 知多：～2022.3.31
- ③ 2018年検定時に全面オーバーレイのため、今年は競技会ごとテープ対応の競技場
一宮：～2019.3.31 刈谷：～2019.3.31
- ④ 2018年度に予算化を要望してほしい、修正時まで競技会ごとにテープ対応の競技場
安城：～2020.12.27 豊田：～2022.8.31
豊川：～2022.3.31 白谷：～2022.3.31

蒲郡：～2022.8.31 半田：～2021.4.21

中京大学：～2021.9.30

- ⑤基本計画から設計時に対応する新設競技場
岡崎 春日井

(青木 実)

審判委員会

平成29年度の愛知陸上競技協会の行事も、各地区の審判伝達講習会を最後に無事終了いたしました。本年度名称が変更されたU20・U18日本選手権が台風接近の影響で最終日の競技については、実施方法の変更や実施種目を中止し、午前中のみで開催となりました。例年のことですが、審判員の皆様には審判業務にご協力いただき、大変感謝いたしております。皆様のお力添えのおかげで、この1年間の大会を無事終了することができました。改めてお礼申し上げます。

また、先日行なわれました「マラソンフェスティバルナゴヤ・愛知」には、650名の審判員が参加してくださいました。ご協力に感謝いたしております。来年度も引き続き参加して下さるようお願いいたします。

今年度は多くの皆様が「B級審判資格講習会」を受講されました。結果として、前期43名、後期25名、合計68名の方が資格を取得され、平成30年度より審判員として活動されます。大会等でのご指導をよろしく願いたします。

今年度のS級資格取得対象者として名古屋地区の八田定丸様・大久保照雄様の2名を推薦いたしました。先日、お二人とも、日本陸連より昇格承認の通知をいただきました。また、A級にも、名古屋地区の田中佑一様・津田高寿様・井上主香子様・大矢新吾様、尾張地区の加東正則様が昇級されました。おめでとうございます。さらなるご活躍を期待いたしております。



審判伝達講習会（名古屋地区）

なお今年度も最終行事として、4地区で審判伝達講習会を開きました。テイクオーバーゾーンの変更点などをお伝えしました。

最後になりましたが、平成30年度も審判員の皆様の協力を得ながら、各種大会の運営をいたしたいと考えております。重ねてご協力をお願い申し上げます。1年間、どうもありがとうございました。(櫻井 一美)

選手強化委員会

2018 都道府県対抗男女駅伝報告

平成30年1月14日(日)女子駅伝が京都で、翌週21日(日)男子駅伝が広島で行なわれました。昨年アベック

入賞を成し遂げ、さらに女子は8年連続の入賞を果たしたチーム愛知。県民の皆さんの期待は当然アベック連続入賞であったことでしょう。エントリー段階でのランキングも、失敗なく襷を繋いでも入賞できるかどうかという位置でした。女子チームについてはチームワークを発揮し、1区の出遅れを2区藤中佑美選手(光ヶ丘女子高)の区間6位(12人抜き)をはじめ、それぞれの区間で役割をきっちり果たしてくれ、見事連続入賞記録を「9」に伸ばしてくれました。愛知は強いと、各県スタッフ・沿道の駅伝ファンから声が聞こえるほどの印象も与えたようでした。残念ながら男子はギリギリでの選手変更が3名もあり、チームとして結束できぬまま本番を迎え、18位という結果に終わってしまいました。ただ今回の結果から、選手はもちろんスタッフも来年に向けての課題をしっかりと持ち、すでに来年度再度アベック入賞に向けて動き出しました。

女子第23回・男子第36回チーム愛知の選手および成績は次の通りです。

女子チーム 第8位 2時間17分44秒

区間	氏名(所属)	記録	区間順位
1区	伊澤菜々華(ユニバーサルAC):F	20分05秒	32位
2区	藤中 佑美(光ヶ丘女子高)	12分47秒	6位
3区	太田 帆香(布袋中)	9分42秒	15位
4区	古川 璃音(豊川高)	13分26秒	13位
5区	山本 彩乃(小島プレス)	13分26秒	10位
6区	川口 桃佳(豊田自動織機)	13分33秒	20位
7区	山本 有真(光ヶ丘女子高)	12分38秒	2位
8区	渡辺 萌梨(六ツ美北中)	10分15秒	7位
9区	鷲見 梓沙(ユニバーサルAC):F	31分52秒	4位

F:ふるさと選手



連続入賞を「9」に伸ばした選手達

男子チーム 第18位 2時間22分54秒

区間	氏名(所属)	記録	区間順位
1区	柳本 匡哉(豊川高)	20分34秒	20位
2区	吉居 駿恭(原東部中)	8分44秒	17位
3区	山口 浩勢(愛三工業)	24分15秒	7位
4区	岩城 亮介(豊川高)	15分03秒	24位
5区	近藤幸太郎(豊川工高)	26分26秒	36位
6区	鶴飼 雄矢(一宮南部中)	9分22秒	29位
7区	山藤 篤司(神奈川大)	38分30秒	10位



勢ぞろいした選手達

本年度も両大会において、愛知県人会の皆様から大会期間中たくさんの激励とご厚情をいただきました。愛知陸協からも沿道・スタンドから熱烈な応援をいただき、選手・スタッフ共々感激いたしております。

大会関係各位、ご配慮いただいた所属チームの皆様方、愛知陸協応援団の皆様には、深く感謝するとともにこの場をお借りしてお礼申し上げます。来年度に向け、一層の結束と強化を推進して参ります。今後ともご理解・ご協力をお願い申し上げます。(明星 光信)

記録・情報処理委員会

2017年に樹立された新記録等

○2017年(1/1~12/31)に更新された記録(紙面の関係で最高のみ掲載します)

一般男子

100km	6.33.52	風見 尚(愛知陸協)	
		[サロマ100kmウルトラ(北見)]	6.25]
10kmW	39.12	丸尾 知司(愛知製鋼)	
		[日本選手権20kmW途中(六甲)]	2.19]
30kmW	2.14.18	丸尾 知司(愛知製鋼)	
		[世界選手権50kmW途中(ロンドン)]	8.13]
50kmW	3.43.03	丸尾 知司(愛知製鋼)	
		[世界選手権50kmW(ロンドン)]	8.13]
円盤投	59.24	湯上 剛輝(トヨタ自動車)	
		[国民体育大会(愛媛)]	10.6]

一般女子

100m	11.43	市川 華菜(ミズノ)	タイ記録
		[布勢スプリント(布勢)]	6.4]
200m	23.39	市川 華菜(ミズノ)	
		[日本選手権(長居)]	6.24]
100mH	13.45	小林 紗矢香(愛知教育大)	
		[日本選手権(長居)]	6.24]

4×100mR	45.44	愛知	
		(高須 鮎香・杉山 美貴・長谷川 愛樹・市川 華菜)	
		[国民体育大会(愛媛)]	10.9]

4×100mR (単)	45.48	中京大中京高	
		(高須 鮎香・久野 なつ・天神 綾音・長谷川 愛樹)	
		[全国高校総体(山形)]	7.31]

ジュニア女子

4×100mR (単)	45.48	中京大中京高	
-------------	-------	--------	--

学校訪問③④

田原市立東部中学校

今年度全日本中学校駅伝競走大会男子の部 10位

今回は、今年度の全日本中学校駅伝競走大会男子の部で10位と健闘した田原市立東部中学校を訪問しました。全国大会に出場するには、まず愛知県の大会で優勝しなければなりません。そのうえ全国大会で10位と入賞までもう一步でしたから、相当な実力を持ち合わせていたと言わなければなりません。訪問は全国大会が終わって1ヶ月半が過ぎ、1、2年生だけの活動の時期でしたが、強さの秘訣が引き継がれているはずだと思っ取材をしました。

強さの秘訣は、練習が始まってすぐにその一つをつかむことができました。練習の最初はどの学校でもジョギングから入るものだと思いますが、このジョギングの姿勢が美しいのです。上半身がしっかりと立って、腰が十分に入っています。前足部で地面をしっかりと捉えて、踵が十分に返っています。地面を十分に捉えている分、膝が前に出て自然と大きな歩幅が得られています。横から見ていると、いわゆる「弓なりの姿勢」が見て取れます。1、2年生の活動ということで、全員が全員というわけにはいかないように見受けられましたが、引退した3年生は弓なりの姿勢でさぞかし美しい動きを見せていたのだろうと想像させられました。



ロングストライドでジョギング



ハードルでパワーアップ

二つめは、基礎基本を大事にされていることだと思われました。ウォーミングアップを終えたあと、15分を超えていたと思います。ハードルを使った動き作りが丁寧に行なわれていました。1、2年生ということで動きが十分には身につけていない選手も見受けられました。また、男子と女子の間には能力差があります。そこに顧問の上田幸輝先生は、十分に配慮をしておられました。ハードル間の距離を変えたり、高さを変えたり、ハードルを寝かせたり。「丁寧に」というのは、十分に時間をかけるということともう一つ、個々の能力に応じてとの二つの感想を抱いた私なりの表現です。

三つめは、短時間ながらも密度の濃い練習内容です。訪問した日のメインの練習内容は300m×5本のインターバル走(つなぎは100mのジョグ)と150m×5本のスピード走でした。練習は8時30分から10時30分までの2時間。その間にこの内容が消化されていきました。無駄に流れる時間は全くありません。そのうえ、質の高さも確保されていました。この日は、卒業生で関東の大学に進学が決まった高校3年生の先輩が練習に加わっていたのです。その先輩が、上田先生から指示を受けていたのでしょう。設定タイムを崩さないように先頭に立って、後輩たちを引っ張っていました。その中に、質の高さが確保されていたのです。私はこの時、もう一つの感想を持ちました。先輩が母校を訪れて練習に加わるという中には、顧問の先生と選手の間、また部活それ自体にアットホームなものがあるのだろうということです。一度の訪問で理由までつかめるものではありませんが、上田先生のお人柄や部の運営のしかた、また渥美半島の地の生徒たちの気質、そういったものが合わさっていい雰囲気ができあがっているのだろうと私は思いました。



先輩のリードで300mインターバル走

四つめとして、部の運営方法を挙げておきます。田原市立東部中学校の陸上部には、もうお一人顧問の先生がいらっしゃいます。柴田賢先生です。柴田先生が短距離・跳躍組の担当、上田先生が中長距離担当ということで、役割を分けておられます。その分、顧問の先生の目が選手一人ひとりに行き届く形になっています。学校によっては熱心に指導に当たる先生を複数配置することが難しいこともあるでしょう。そうした中で、田原市立東部中学校の陸上部員は恵まれた状況にあると言えるでしょう。短距離グループも、中長距離グループに劣らない練習をこなしていました。

ここで一つ付け加えておきたいことがあります。それは、上田先生ご自身が陸上競技を経験していらっしゃるということです。選手を全国に導いたということですから、さぞかし陸上競技の経験が豊富な方だと思っております。どうして全国に導くことができたのかとお伺いしてみると、練習環境が一役買っているとのことでした。訪問した日は白谷海浜公園陸上競技場での練習だったのですが、この日は田原中学校と田原陸上クラブも練習に来ていました。田原陸上クラブは100名を超える大所帯です。そうした他の団体の練習が大いに参考になると上田先生はおっしゃっていました。時には、成章高校や福江高校といった近隣の高校も一緒になるのだそうです。そして白谷の競技場は、トヨタ自動車の長距離の選手たちの練習拠点でもあります。一流選手たちの練習を目の当たりにすることもあるのだそうです。上田先生は、トヨタ自動車の選手たちの練習から学べることがあるとおっしゃっていました。私はそのことを聞いて、上田先生ばかりでなく生徒たちも学んでいるのだろうと思いました。上田先生は以前は短距離のグループを担当されていて、中長距離に移ってまだ二年だそうです。二年にして全国大会へ導かれたのですから、貪欲に吸収されたのでしょう。二十年ほども競技歴のある私は、陸上競技の経験が無くとも全国大会に生徒を導くことができたことに敬意を抱くとともに、負けてはられないとの思いを強くしました。



先生のお話を聞く部員たち

練習の最後はどの学校でもクーリングダウンということになりますが、生徒たちは練習中とは違って和気あいあいとくつろいだ中で体の手入れを行っていました。上田先生とも親しげな会話が交わされていました。部の雰囲気も、高いパフォーマンスを生み出す要因の一つになっているのでしょうか。お揃いのジャージで気持ちが一つになっているようにも思いました。連続して全国というのは難しいことですが、この練習状況ならば次も愛知県大会では上位に食い込むに違いないと思ひながら私は帰路につきました。

(取材・文責 大西敏功 写真 横田小百合)

	(高須 鮎香・久野 なつ・天神 綾音・長谷川 愛樹)		[全国高校総体 (山形) 7.31]
棒高跳	3.80 水上 真理 (岡崎城西高)		[国体選考強化普及 (瑞穂) 4.16]
高校男子			
1000m	2.30.56 鳥居 風樹 (中京大中京)		[名古屋地区競技会 (瑞穂) 3.20]
300mH	37.65 伊奈 颯太 (豊川)		[全国高校選抜 (長居第二) 8.26]
3000mW	12.31.27 小林 貫太 (丹羽)		[知多尾張高校ジュニア (知多) 7.23]
5000mW	20.27.41 井上 雄太郎 (千種)		[駅伝強化長距離競歩 (瑞穂北) 11.11]
3kmW	13.03 大島 涼賀 (一宮)		[全日本競歩 (輪島) 4.16]
高校女子			
1000m	2.57.85 森 美月 (愛知)		[名古屋地区競技会 (瑞穂) 3.20]
100mYH	13.69 安達 楓恋 (中京大中京高)		[U18 日本選手権 (瑞穂) 10.20]
4×100mR	45.48 中京大中京		(高須 鮎香・久野 なつ・天神 綾音・長谷川 愛樹) [全国高校総体 (山形) 7.31]
棒高跳	3.80 水上 真理 (岡崎城西高)		[国体選考強化普及 (瑞穂) 4.16]
三段跳	12.66 宮川 杏奈 (三好)		[愛知選手権 (瑞穂) 7.17]
中学男子			
100m	10.80 浦野 凱瑛 (豊岡)		[東三河中学総体 (豊川) 7.15]
1000m	2.36.76 大岩 歩夢 (東港)		[名古屋地区競技会 (瑞穂) 3.20]
110mH	14.02 鈴木 大河 (扇台)		[全日本中学選手権 (熊本) 8.22]
110mJH	14.68 鈴木 大河 (扇台)		[愛知ジュニア (瑞穂) 9.10]
4×100mR	(単) 42.78 扇台		(西垣 拓音・小島 秀斗・鈴木 大河・吉田 壮一郎) [全日本中学選手権 (熊本) 8.22]
4×400mR	3.29.65 扇台		(吉田 壮一郎・鈴木 大河・水野 絢心・西垣 拓音) [名古屋地区新人 OP (知多) 9.24]
ジャベックスロ-	75.43 大野 雄士 (富士)		[愛知ジュニア (瑞穂) 9.10]
中学女子			
400mH	1.09.85 前田 あすか (AC一宮)		[尾張記録会 (一宮) 8.20]
4×400mR	3.53.97 TSM		(高嵯 桃花・澤 美羽・大井 サラ・池田 汐李) [名古屋地区選手権 (瑞穂) 10.8]
三段跳	9.76 前田 あすか (AC一宮)		[尾張記録会 (一宮) 10.14]
四種競技	2839 池田 汐李 (柏原)		

[愛知中学通信 (瑞穂) 7.22]

中学混合

4×400mR 3.58.36 御幸山
(安達 蓮・青山 理奈・須崎 心優・桐山 誠二郎)
[名古屋市小中競技会 (瑞穂) 11.4]

○ 2017 年に更新された小学生最高記録

小学生男子

5年ジャベリックボール投
55.49 鬼頭 孝征 (JAC あつみ)
[全三河小学生秋季 (白谷海浜) 9.24]

6年ジャベリックボール投
61.85 渡辺 陸 (JAC 武豊)
[県小学生リレー (瑞穂) 6.24]

小学生女子

6年80mH 12.20 田島 七里香 (TSM)
[全国小学生交流 (日産スタジアム) 8.19]

6年走幅跳 5.23 渡辺 実優花 (AC一宮)
[県小学生選手権 (瑞穂) 11.3]

5年ジャベリックボール投
48.91 中村 文香 (TSM)
[名古屋地区小学生 (知多) 8.5]

2種競技B 1926 渡辺 実優花 (AC一宮)
[県小学生選手権 (瑞穂) 11.3]

最高記録以外の新記録については 2017 年愛知陸協記録集をご覧ください。
(石鎚 一則)

女性委員会

「女性指導者のためのコーチングクリニック」(第22回 JAAF コーチングクリニック)が、1月7日(日)日本女子体育大学で開催され参加してきました。全国から53名(愛知は4名)が参加、大学生・教員・クラブチーム指導者・マスターズ選手など様々な分野の方が参加されていました。午前中は3種目の跳躍実技講習でした。走高跳・棒高跳・走幅跳の3種目をグループごとに受講し、実際に自分たちもからだを動かしての講習でした。特に棒高跳では、一人ずつボールが用意されており、持ち方から軽いステップジャンプを教わり、最後は砂場を利用しての初心者向けの棒高跳を体験しました。棒高跳を経験する機会はなかなかないため、たいへん良い経験となりました。また、練習内容の説明と同時に女性指導者だからこそその声かけ方法やアドバイス方法なども取り入れて話して下さるなど、女性だけの講習らしさもたくさん盛り込まれていました。

午後のワークショップ①は「絶賛活躍中! 現役女性アスリート及びOGによるトークセッション」をテーマに4名の講師の先生方が、オリンピックや世界陸上等での活躍時のエピソードや今問題となっているドーピングについての経験談を話していただきました。また陸上を始めたきっかけなどの話も聞くことができ、たいへん楽しい時間となりました。ワークショップ②では「女性特性(女性アスリートの三主徴など)について」をテーマに日本体育協会公認スポーツドクターであり産婦人科医の先生が様々な女性アスリートの問題点について詳しく話していただきました。

こちらもたいへん勉強になりました。

たくさんの方を学んだり体験したり、また多くの方との交流もでき、たいへん有意義な講習会となりました。女性のための講習会は、残念ながらこの5年程開催されていませんでした。今後は以前のように、女性指導者の講習会が多く開催されることを期待します。そして、多くの方に参加してもらえればと思います。日本陸上競技連盟普及育成委員会の皆様方からも、今後も女性指導者の講習が引き続き開催できるように今回の開催を多くの方にお知らせしてもらいたいという事でした。この場をお借りしてお知らせします。(谷 好美)

年誌資料・広報委員会

「愛知陸協広報」45～47号編集計画(案)

号 数	発行月日	編 集 内 容
「愛知陸協 広報」 45号	7/31	<ul style="list-style-type: none"> ・会長のことば ・専門委員会報告及び今年度の活動方針 ・4地区の活動状況及び今年度の活動方針 ・関係団体の活動状況 ・競技会報告(国体選考、国体春季選抜、東海学生、県マスターズ、県高校総体、日本選手権、県高校定通、東海高校総体、県・東海混成、小学生リレー、愛知レディース等) ・理事会等会議報告 ・慶弔報告(協会会長表彰他) ・連載 <ul style="list-style-type: none"> ・ホープさん㉔ ・クラブ紹介㉕ ・学校訪問㉖ ・陸上競技場めぐり㉗
「愛知陸協 広報」 46号	11/30	<ul style="list-style-type: none"> ・専務理事のことば ・専門委員会報告 ・4地区の活動状況 ・関係団体の活動状況 ・競技会報告(愛知選手権、県中学通信・県中総体、東海中総体、全日中、県ジュニア、県高校新人、U20・U18、国体、県小学生等) ・理事会等会議報告 ・競技会参戦及び観戦記(全国高校総体、国体他) ・慶弔報告(秩父宮章他) ・連載 <ul style="list-style-type: none"> ・ホープさん㉔ ・クラブ紹介㉕ ・学校訪問㉖
「愛知陸協 広報」 47号	3/31	<ul style="list-style-type: none"> ・副会長のことば ・専門委員会報告 ・4地区の活動状況及び今年度の反省

「愛知陸協 広報」 47号	3/31	<ul style="list-style-type: none"> ・関係団体の活動状況及び今年度の反省 ・競技会報告(県高校駅伝、県中学駅伝、市町村駅伝、東海学生駅伝、駅伝カーニバル、全国高校駅伝、新春ロード・競歩、実業団駅伝、都道府県駅伝、読売犬山ハーフ、マラソンフェスティバル等) ・理事会等会議報告 ・競技会参戦及び観戦記(都道府県駅伝等) ・慶弔報告(具体協表彰他) ・連載 <ul style="list-style-type: none"> ・ホープさん㉔ ・クラブ紹介㉕ ・学校紹介㉖ ・陸上競技場めぐり㉗
---------------------	------	---

(新見 精三)

各地区報告

名古屋地区陸上競技協会

<愛知駅伝>

市の部は、名古屋市が3連覇を懸けて臨みましたが、健闘むなしく8位に終わりました。名古屋地区では、瀬戸市の7位が最高順位でした。町村の部は、阿久比町が悲願の初優勝、2位東郷町、3位東浦町、4位武豊町、7位美浜町と多数が上位入賞を果たしました。

区間賞は、阪井 空選手(瀬戸：水無瀬中)3年連続、池田昌雄選手(春日井：内外カーボンインキ)3年連続4度目、近藤直樹選手(阿久比：愛知製鋼)、岡田なのは選手(阿久比：東部小)、竹内麻里子選手(阿久比：愛媛銀行)2年連続3度目、原田 翼選手(東郷：豊明高)、村上弓月選手(東郷：豊明高)2年連続、植田陽平選手(武豊：麗澤大)2度目、木口瑞貴選手(美浜：河和中)が獲得と大活躍しました。

<陸上競技教室>

瑞穂・半田・知多の3会場で、半田・知多は各3日間、瑞穂は6日間で延べ約4500名の小・中・高校生が参加して、各ブロック別に基礎・基本を中心とした指導が熱心に行なわれました。それぞれ、参加者の意欲で盛り上がりのある教室となりました。特に今回は学生の指導者が多く参加しており、将来の指導者育成にも大いに役立ったと思います。

また、2月3日には、リオオリンピック・北京世界選手権の1600mR代表の田村朋也選手を、2月11日には、愛媛国体の円盤投で優勝した湯上剛輝選手を迎え、クリニックが行なわれました。トップアスリートの動きを間近で見たり直接指導してもらうことは、選手やコーチにとって、刺激的であると同時に、これからの技量を高める大きな財産となりました。投擲種目でトップアスリートを招待するのは今回が初めてでしたが、大好評で終えることができたため、今後もチャンスがあれば大舞台で活躍した選手をど

んどん招請し、「夢」を育む活動を継続したいと思います。



パロマ瑞穂：田村朋也選手のクリニック 知多：湯上剛輝選手のクリニック
(可知 裕行)

尾張陸上競技協会

今年度の尾張陸上教室は12月16日(土)、1月6日(土)、2月3日(土)の3回、県営一宮総合運動場(いちい信金スポーツセンター)にて開催しました。昨年に続き円盤投の湯上剛輝選手を始め、多くのトップアスリートがコーチとして参加してくれました。そのコーチの動きを見る中高生の真剣な眼差しが、とても印象的でした。最終日の閉講式では、今年度下半期の優秀選手を表彰、表彰状とメダルをハンマー投ユニバーシアードに出場した墨 訓熙選手に授与していただきました。特に全国中学駅伝大会女子の部に出場した一宮市立中部中学校の功績は、快挙と言えます。メンバーには1・2年生が多く、来年度にも大いに期待が持てます。この陸上教室から、多くの選手が全国大会に出場してくれることを期待しています。

今年度最後の競技会である第65回尾張駅伝競走大会は、1月14日(日)に県営一宮総合運動場および周辺コースで実施しました。昨年度は雪で大変苦勞した大会でしたが、今年度は天候に恵まれた中での大会でした。結果については下記のとおりです。

一般男子の部 (21km)

1	ぬまちゃんずA	1.08.08
2	尾張クラブ	1.11.34
3	ぬまちゃんずB	1.12.45

高校男子の部 (21km)

1	愛知黎明 A	1.06.50
2	愛知黎明 B	1.07.15
3	一宮興道	1.09.45

高校女子の部 (18.9km)

1	愛知黎明	1.08.31
2	西春	1.11.48
3	江南	1.15.20

中学男子の部 (14.7km)

1	宮田 A	50.00
2	古知野 A	50.11
3	犬山南部 A	51.04

中学女子の部 (14.7km)

1	古知野 A	57.32
2	宮田 A	58.47
3	城東 A	1.00.09

来年度は県営一宮総合運動場陸上競技場の公認更新工事(9月中旬から3月下旬までを予定)に伴い、コースを一部変更して開催する予定です。

続いて今回も、尾張陸協の運営上の工夫を紹介します。今までは競技会運営上のものを紹介してきましたが、今回は協会の運営上のものです。昨年9月に『尾張陸上競技協会 規定集』を発行しました。尾張陸協に関わる方々に陸協の規定をしっかりと理解していただき、相互理解を深めるためにです。役員や審判員、所属団体の人たちが陸協の規定を理解していれば、協会の運営ばかりでなく競技会の運営も円滑なものになると期待しています。また表彰規定を盛り込んだことにより、役員並びに指導者、選手の意欲

が高まることも期待しています。

以下に規定集の内容を、目次を示すことで紹介しておきます。

1. 尾張陸上競技協会規約
2. 専門委員会規定
3. 尾張陸上競技協会表彰内規
4. 尾張陸上競技協会選手表彰内規(該当大会)
5. 尾張陸上競技協会指導者表彰内規(該当大会)
6. 全国大会出場者への激励金・褒賞金について
7. 国際大会出場者への激励金について
8. 尾張陸上競技選手権賞寄贈者について
9. 尾張陸上競技選手権大会最優秀選手について
10. 高体連・中小体連関係大会役員交通費について
11. 尾張陸上競技協会準備品費用負担について
12. 尾張陸上競技協会所有備品使用について
13. 尾張陸上競技協会慶弔、見舞い内規
14. (参考) 愛知陸上競技協会 定款
15. (参考) 愛知陸上競技協会 表彰規定

(青山 充資)

西三河陸上競技協会

念願の造成開始—岡崎新競技場への期待

県営岡崎総合運動場の陸上競技場は、昭和44年に第4種公認競技場として設置されて以来、西三河地域における陸上競技の拠点として大きな役割を果たしてまいりました。

近年、近隣の各都市では全天候型陸上競技場になりました。本陸上競技場はスタンドが無く、雨天時のテント内本部席では放送施設や書類も濡れ、運営に支障をきたしていました。さらにグラウンドは泥沼状態となり、選手の待機場所も無く、雨に打たれた選手の安全・健康状態も心配され、到底好記録など望めない状況でした。また競技器具が老朽化し、写真判定装置もありませんでした。

5年前から中核都市にふさわしい新陸上競技場建設を願ひ、県や岡崎市、関係各位に要望書を提出しました。また署名活動等を行ない、ようやく27年4月に県から岡崎市に移管され、28年後半より建設工事に取りかかりました。新陸上競技場は2020年に完成予定です。

新陸上競技場は全天候型公認第三種競技場で、本部棟には役員室・会議室・写真判定室・審判控室医務室等、二階のメインスタンドは約1000名収容、走路は8レーン、インフィールドは天然芝で、名称は未定です。周囲にジョギングコースが予定されています。

新陸上競技場が完成した後は、陸上競技に取り組む選手の絶好の施設になり、その中で第二の中村明彦、市川華菜、山本聖途が誕生する場となるでしょう。また隣接する各種の競技施設も新しく整備され、新総合運動場として地域住民のスポーツ振興の大きな柱となることが期待されます。

(村上 脩一)

東三河陸上競技協会

今シーズンを終えて

今年度は東三河陸上競技協会にとって、例年以上に慌ただしい1年でした。そんな1年を振り返って今年も私の独断で、東三河陸上競技協会の10大ニュースを作ってみま

した。

☆第1位 豊橋市陸上競技場のスタンドの改修工事完了

昭和24年から東三河の陸上競技の発展を見守ってきた豊橋市陸上競技場のスタンドの取り壊し工事が一昨年の11月に始まり、昨年の4月から新しいスタンドの建設が始まりました。そして、アスリートファーストをコンセプトに、最新のトレーニングマシンを取り入れたコンディショニングルームや100m 3レーンの屋内練習走路ができました。また約560mのクロスカントリーコースも備えた新装豊橋市陸上競技場が、3月25日穂の国・豊橋ハーフマラソン大会でお披露目されました。

☆第2位 クイーンズ駅伝で東三河出身の選手が大活躍

優勝したユニバーサルエンターテインメントには、3区の鷺見梓沙、4区の伊澤菜々花、6区の猿見田裕香の豊川高校出身の3選手が優勝に貢献する走りを見せました。2位に入賞したパナソニックでは、豊川高校出身の3区堀優花選手が区間賞の走りを見せ、4位入賞のJP日本郵政グループでも、時習館高校出身の1区鈴木亜由子、豊川高校出身の5区関根花観の2選手が活躍しました。

☆第3位 ジュニアオリンピックで東三河の中学生大活躍

10月27日～29日に、横浜で行なわれたジュニアオリンピック陸上競技大会には、10校12名の選手が出場し、

吉井駿恭選手(田原東部)が男子B1500mで2位、中川拓真選手(東陵)が男子A砲丸投で6位、浦野凱瑛選手(豊岡)が男子A100mで8位、小柳津史也選手(石巻)が男子B110mHで8位に入賞しました。

☆第4位 高校総体で東三河の高校生活躍

7月29日～8月2日に、山形で行なわれた全国高校総合体育大会には、5校12名の選手が出場し、藤遼光源選手(海陽学園)が男子100mで6位、200mで7位、相場里咲選手(豊橋南)が女子800mで8位に入賞しました。

☆第5位 全国大会で東三河の小学生が羽ばたく

8月19日に横浜で行なわれた全国小学生陸上交流大会では、豊橋陸上クラブが女子6年4×100mRで3位、佐藤俐有選手(田原陸上ク)が女子5年100mで3位に入賞しました。

☆第6位 全国中学総体で浦野凱瑛選手(豊岡)が男子100mで5位、横山こころ選手(高師台)が7位入賞。

☆第7位 渥美半島駅伝競走大会が5年ぶりにコースを変更して復活

☆第8位 田原東部中男子が全国中学校駅伝大会初出場で10位と健闘

☆第9位 豊川高校男子が全国高校駅伝に4年連続5回目の出場

ホープさん ③⑦

鈴木 大河 選手(扇台中3年)

29年度の全国中学選手権では、110mHにおいて14.02で優勝、400mRでは、日本中学記録まで0.01秒という記録を出し、順調なシーズンを送ることができました。

入学当初は、身長も低く、緊張をしていたのか物静かな感じでした。しかし、練習を見てみると、その印象を吹き飛ばすかのような動きを見せてくれました。ものすごくダイナミックで伸び伸びと、そして楽しそうに走る姿を見て、今後がとても楽しみな選手であると感じました。

ここまでの結果だけを見ると、すごく順調のように思えますが、いくつもの障害があり、その都度に力をつけていったように感じます。その中で、彼の意識を大きく変えることになったのが、昨年度のジュニアオリンピックでの準決勝敗退でした。自己ベストを出しながら、目標にしていた決勝進出はなりません。彼は、本当に悔しかったようで、その時を境に練習への取り組みが変化していったと感じます。それまでも練習を頑張ってはいましたが、さらに細かなところにも気を配りながら、苦しいときにも必死で頑張る姿が多くなってきました。また、体のコンディションを良い状態に保つために、食事を考えたり、体のケアをしっかりと行なったりするなど、競技者として成長していったと感じました。その他にも、東海大会決勝での転倒、手の骨折など多くのトラブルがありましたが、そのたびに一回りも、二回りも大きく成長する姿がありました。

また、彼は、練習仲間にも恵まれました。同学年には吉田壮一郎がおり、100mのベスト記録もほぼ同じ記録(昨年度は2人とも11.71、今年度は鈴木が11.16、吉田が11.17)で走っており、走練習では練習時からとても良いライバルとなっていました。一人だけ強くてはどうしても練習で追い込めない。そんな中、同級生の存在がとても大きかったです。

鈴木を指導していて一番驚いたのが、勝負強さです。狙った試合で気持ちを高め勝負する準備をするのがとても上手です。それを証明するのが、県総体、全中、ジュニアオリンピックなどの大きな大会で確実に自己ベストを出していることです。本人と話をすると、「試合は緊張します。でも楽しいです。」との言葉。中学生において大きな大会を「楽しんで勝負できる場所」と言えるのには感心しました。多くの中学生は全国大会になると緊張し過ぎてしまって力が発揮できないことが多いものです。しかし、鈴木は「緊張するけど、その緊張感が好き」と言えることが彼の強さの一つです。

鈴木は、現在もいろいろな練習に取り組みながらどんどん成長しています。来年度、さらに進化した彼がトラックを走り抜ける姿を想像すると、今からワクワクしてきます。今後、順調に成長していき、いつかは世界を舞台に活躍できる選手になってほしいと願っています。

(佐橋 弘晃)



左：鈴木大河選手 右：吉田壮一郎選手



5年ぶりに復活した渥美半島駅伝のスタート

☆第10位 豊川市陸上競技場の投てき用の防護ネットが突風で飛ばされ破損

新装なった豊橋市陸上競技場を中心に、新年度も東三河陸上界が盛り上がり、多くの好記録が生まれることを期待しています。(兵藤 重二)

関係団体報告

小学生友の会

平成29年12月10日(日)万博記念公園特設コース(大阪)で、日清食品カップ第20回全国小学生クロスカントリーリレー研修大会が行なわれました。愛知県からは、岡崎ジュニアアスリートクラブが参加しました。前日には、日清食品グループ陸上長距離部の講演やインスタントラーメン発明記念館見学など、盛りだくさんの内容でした。

大会当日は、選手は自分の力を精一杯出し、それを指導者が熱心に支えていました。結果は5位(31'27")入賞と、素晴らしいものでした。選手、指導者ともに愛知県代表として高い意識で大会に参加することができました。

大会を通して、記録や大会に臨む姿勢、考え方など子どもたち個々の成長を強く感じることができました。将来、愛知の陸上界をけん引していく力となってほしいものです。

友の会は、2020年の東京オリンピックに向けて、オリンピックを盛り上げることはもちろん、将来のオリンピックを目指し、活躍できる選手の発掘・強化を行なっていきたいと思います。

順位	チーム名					成績
5	岡崎 JAC					31.27
1区	2区	3区	4区	5区	6区	
5.23	5.04	5.16	5.05	5.29	5.10	
鈴木若菜	杉田晃大	壁谷柰奈	桑田駿介	天野花音	山上峻汰	

(佐々木博幸)

中小体連

今シーズンを終えて

●県中学駅伝 (11 / 18 : 新城)

本年度最後の主催事業となる県中学駅伝は、男子は田原市立東部中学校、女子は一宮市立中部中学校が優勝を飾り

ました。

全国中学校駅伝大会は滋賀県の希望ヶ丘文化公園で行なわれました。田原市立東部中 10 位、一宮市立中部中 23 位と両チームともに愛知県の代表としてよく頑張ったと思います。

また、大会の開催にあたっては、東三河支部中体連の関係各位に絶大なるご支援とご協力をいただきました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

●日本陸連 U16 東海・北信越ブロック研修合宿 (1 / 6・7 : 愛知県・パロマ)

5 回目を迎えた本事業が、今年度は初の地元開催となりました。東海 4 県選手各 40 名、指導者各 10 名の 200 名が参加し、短距離・ハードル・走高跳・棒高跳・走幅跳・砲丸投の 6 ブロックに分かれて行ないました。

この合宿の特徴として、種目練習だけでなく、競技者としての心構えや目標設定方法、種目の基礎理論についての座学を中心としたミーティングを重視していることがあげられます。

県を越える単位での選手間の親睦、競技力向上や指導者間のつながり、研修など大変有意義であるこの事業と、陸協ジュニア部で実施いただいているジュニア強化練習会に加え、各地区の陸上教室、練習会を柱として大きな成果を上げられるよう、来シーズンも記録や勝負に挑んでいきたいと思っております。

平成 26 年度から 4 年間、県中体連陸上競技部専門委員長を務めさせていただきましたが、年度末をもって、退任させていただくこととなりました。未熟な点や、至らなかった点などで、ご迷惑をおかけしてしまったこともあったかと思いますが、皆様からの温かいサポートをいただき、無事、任期を終えることができました。専門委員長の仕事を通じて、中学の陸上界がいかに皆様によって支えられていたのかを実感することもできました。本当にありがとうございました。(丹羽 智行)

高体連

平成 29 年度を振り返って

今シーズンは全体的に少し地味な前半戦となりました。インターハイへの出場者数は昨年度と同数でしたが、「目立つ」という意味では少し残念な結果でした。

秋のシーズンは少し心配していましたが、1、2 年生の活躍は特筆するものがありました。国体での入賞や、U18 日本選手権での活躍は来年度に向けて明るい話題です。平成 30 年度は東海地区(三重県)での全国総体開催です。地元として、大いなる活躍を期待したいと思います。

高校駅伝は今年度も通常開催となり、愛知県からは男子豊川高校、女子は県大会でのデッドヒートを制した光ヶ丘女子高校が出場しました。光ヶ丘女子高校は初出場でした。昨年度は、女子の豊川高校が全国で 7 位に入賞しましたが、今年度は男女ともに残念な結果に終わりました。県内のレベルは高水準を保っています。各学校が切磋琢磨し、30 年度こそは上位入賞を期待したいと思います。女子は記念大会になります。東海大会は地元、知多市で行なわれます。更なる活躍を期待します。また、競技役員のお願いもしなければなりません。審判員の皆様のご協力も合

わせて、お願いいたします。

前述の通り、平成30年度は三重県で全国総体が開催されます。多くの選手が東海地区を勝ち抜け、三重の地に愛知の名前を轟かせてほしいと思います。

2020年東京オリンピックもいよいよ秒読みになってきます。多くの選手が目標として、一人でも多くの選手が東京を目指していけるように、高体連としても応援していきたいと思っています。

平成30年度が愛知県高体連にとって素晴らしい年になるように、頑張っていきたいと思っています。今後ともご協力をお願いいたします。(石井 哲郎)

高体連定通部 今シーズンを終えて



2018年も駒沢で最高の笑顔を見せよう！

あっという間に月日が過ぎ去り、一年の振り返りをする季節がやってきました。この一年は各選手と先生方の頑張り、全国大会を始めとして期待以上の結果を残すことができました。また、高体連定通陸上としての一体感も一段と高まったように思います。「自分自身に火がついて、初めて子どもに熱が伝わる」というある指導者の言葉があります。まずは私たち指導者がこの流れを継続できるように火を絶やさず、熱を伝え続けられるように来季も頑張ります。

さて、定通の全国大会は都道府県対抗で争われますが、これを学校対抗にするならば科技高刈谷が総合優勝を果たすと思われま。それくらい科技高刈谷の力があってこそこの愛知県ですが、他校も負けてはいられません。生徒を理解し、やる気を起こし、うまく導いてくださる先生方がたくさんいます。新たに城北つばさ高校も定通部に加わり、活気がさらに出てきました。各校から全国で戦える選手が生まれることを大いに期待したいと思っています。そのためにも、まずは陸上競技をする生徒を増やさなければなりません。

最後に「定通制に進学しても陸上競技はできます！」定通制へ進学をする中学生、先生方にこの場をお借りしてアピールをさせていただきます。(野口 武則)

学 連

新記録と躍進の2017年シーズン

日本陸上競技界にとっての2017年は、「日本人初の100m、9秒台」を誰もが真っ先に挙げるであろう。そして、東海地区の学生陸上競技界も2020年東京大会、またはその後に向けて明るい兆しが見えたシーズンであった。

本稿では、日本インカレのタイトル獲得者や東海学生記録を更新した選手たち(表)を紹介する。

小林選手(安城学園出)と鈴木選手(岡崎城西出)は、地元愛知県の出身で、県内では顔馴染みの選手であろう。小林選手は、昨年から自身が持つ愛知県記録や東海学生記録を更新し続けている。2017年大会で2連覇を達成した日本インカレでは、2018年大会でも優勝し、3連覇が期待できる選手である。棒高跳で「岡崎城西-中京大」は、高校の先輩にあたる山本聖途選手(現トヨタ自動車)の印象が強いが、鈴木選手もその偉大な先輩の後を追って、2017年日本インカレでは大会新で優勝し、前回大会に続き2連覇を達成した。五藤選手は、ジュニア時代から世界大会で入賞経験を有する選手で、在学中の学生タイトルは全て獲得した。赤松選手は、大学2年時に2m25を跳び日本インカレのタイトルを獲得したものの、昨シーズンは低迷したが今回は2年ぶりの選手権者に再び咲いた。長野県出身の中山選手は、大学4年時に16mを超え、その後、安定して16m台の跳躍をしている。そして、タイトルこそは無かったが、川瀬翔矢選手(皇學館大)は、1年生ながら5000mで13分54秒32を記録した。実は、川口孝志郎氏(現中京大コーチ)以来、東海地区の大学生が13分台で走った実績がない。記録だけを評価すると関東や関西地区の競技レベルとは見劣りするが、長年低迷していた東海地区の長距離の競技水準を打破する一石になったのではないだろうか。

今回紹介した選手たちが更新した従来の記録は、後の日本を代表する選手として活躍した(している)選手たちが学生時代に樹立した記録である。2018年シーズンは、これらの記録を更新した選手たちの活躍を期待したい。

表：2017年タイトルを獲得、記録更新した選手

選手名(所属/学年)	種目	記録
小林紗矢香(愛知教育大3年)	100mH	13.45
東海学生新記録 愛知県記録 日本学生対校優勝(2連覇、13.37追参)		
五藤 怜奈(中部学院大4年)	10000mW	45分49秒80
日本学生対校優勝(4連覇)		
赤松 諒一(岐阜大4年)	走高跳	2m22
日本学生対校優勝(2回目)		
鈴木 康太(中京大4年)	棒高跳	5m60
日本学生対校優勝(2連覇、大会新)		
中山 昂平(中京大院1年)	三段跳	16m20
東海学生記録 日本学生対校2位(16m09、追参)		

(黒須 雅弘)

実業団

今年度を振り返って

トラック・一般種目としては、日本選手権100m・200m2冠の市川華菜選手(ミズノ)をはじめ、全日本実業団棒高跳優勝の山本聖途選手(トヨタ自動車)、走高跳優勝の道脇大斗選手(東山小教)がタイトルを取りました。国体においては、円盤投の湯上剛輝選手(トヨタ自動車)が大会新で優勝を飾りました。

長距離種目については、山口ハーフマラソン 10Km の部において、福田有以選手（豊田自動織機）が大会新で2連覇を達成しました。



全日本実業団ハーフマラソン 10Km の部連覇の福田選手

ただ全日本実業団女子駅伝では、豊田自動織機が昨年の失格の雪辱を晴らすべく、予選のプリンス駅伝をトップで通過しましたが、本大会のクイーンズ駅伝は9位で入賞を逃し、再度予選より頂点を目指すこととなりました。2018年度に期待したいと思います。

また、男子のニューイヤー駅伝では、優勝奪回を目指すトヨタ自動車が、旭化成、ホンダにつぐ3位となり、くやしい結果となりました。

ただ、東京マラソン出場の宮脇千博選手（トヨタ自動車）が2時間8分45秒のタイムで全体の8位となり2020年東京オリンピックに向け、明るい材料もできました。

（中村 博之）

マスターズ陸上

全日本マスターズ陸上競技選手権が、10月27日（金）～29日（日）までの3日間の日程で紀三井寺公園陸上競技場（和歌山市）にて行なわれました。大会は総勢2263名の過去最高のエントリー数となり、愛知県からは男子142名、女子30名の計172名がエントリーし、大阪府の214名に次いで2番目に多いエントリー数でした。

男子では、M24-のクラスで神田幸大選手が200mと5000mで優勝。M25で山口峰昌選手、田中星次選手、若林克之選手、深見篤貴選手が4×100mRで優勝（大会新）、金田純弥選手が立五段跳で優勝。M30で岡戸成樹選手が110mHで優勝。M45で磯貝剛基選手が棒高跳で優勝、松原憲治選手が走幅跳で優勝。M55で杉浦拓選手が100mで優勝、下川勝彦選手が5000mで優勝。M65で中村勉選手が砲丸投、円盤投、ハンマー投で優勝。M70で外山修選手が砲丸投で優勝。M75で小山真一選手が800mで優勝、山田博嗣選手が砲丸投で優勝とハンマー投で優勝（日本新）しました。

女子では、W24-のクラスで小原彩音選手が400mで優勝、100mHで児玉ありみ選手が優勝（日本新）、松井美樹選手、小原彩音選手、児玉ありみ選手、齊藤麻希選手が4×100mRで優勝。W30で田中みのり選手が100mで優勝、近藤



W50で4×100mR優勝（日本新）

理絵選手が400mで優勝、さらに田中みのり選手が100mHで優勝（日本新）。W40で小川香織選手が80mHで優勝。W45で釜純子選手が走高跳で優勝（大会タイ）。W50で宮本百合選手が200mで優勝（大会新）、谷寄好美選手、宮本百合選手、八代香津子選手、金子葉子選手が4×100mRで優勝（日本新）。W55で碓井由紀子選手が400mで優勝（大会新）、中山淳子選手が800mで優勝。W70では加藤敦子選手が円盤投とハンマー投で優勝しました。

台風22号接近の影響で29日（日）の競技会が中止となり2日間の大会となってしまいましたが、今回も愛知県勢の活躍ぶりが光った大会でした。

（永山 宏智）

OB・OG会

新年OB・OG会懇親会は1月16日・17日に、犬山温泉の臨江館で開催しました。今回は尾張地区世話人のお世話で26名の参加でした。集合は16日の夕刻でしたので、その間、国宝犬山城やその城下町など散策もできました。特に「からくり展示館」は日本の文化に触れることができ、一見の価値がありました。そして、いよいよ夜の懇親会。皆さん和やかに交流して、また、カラオケで大いに盛り上がるなど、夜の更けるのを忘れる楽しい時間でした。翌朝はあいにく天候には恵まれませんでしたが、早朝より朝風呂の温泉につかり、おいしい朝食後に解散となりました。

次年度は名古屋地区世話人が幹事としてお世話をする事となっております。多くの会員の皆様のご参加をお待ちします。



親睦を深めた会員達

（水野 久）

競技会報告

第57回中部実業団対抗駅伝

2017年11月19日（日）

コース：道の駅伊良湖港～はなとき通り 7区間 83.5km

成績（本県分のみ）

1 トヨタ自動車A 4.05.35 大会新

（藤本 拓・ニコラス コシンベイ・宮脇千博・大石港与・早川 翼・西山雄介・山本修平）

2 愛三工業 4.08.42 6 中央発條 4.10.52

3 トヨタ紡織 4.09.03 7 愛知製鋼 4.12.29
 4 トーエネック 4.09.21 Op トヨタ自動車B 4.08.58

区間賞 1区 石川裕之(愛三工業) 36.45
 3区 宮脇千博(トヨタ自動車A) 32.55 区間新
 4区 鈴木洋平(愛三工業) 49.49
 5区 早川 翼(トヨタ自動車A) 37.19
 6区 西山雄介(トヨタ自動車A) 26.55
 7区 山本修平(トヨタ自動車A) 38.29

第12回愛知県市町村対抗駅伝競走大会
 2017年12月2日(土) 愛・地球博記念公園 9区間28.7km

順位	市の部		町村の部	
1	豊田	1.31.57	阿久比	1.35.33
2	豊橋	1.32.43	東郷	1.37.28
3	岡崎	1.33.34	東浦	1.38.08
4	田原	1.33.39	武豊	1.38.34
5	豊川	1.34.27	蟹江	1.39.41
6	江南	1.34.31	幸田	1.43.23
7	瀬戸	1.34.54	美浜	1.46.03
8	名古屋	1.35.09	扶桑	1.46.06
9	日進	1.35.15	飛鳥	1.46.13
10	刈谷	1.35.18	大口	1.48.02

区間賞 (○数字は区間を示す)

市の部

- ①阪井 空(瀬戸)
- ②近藤幸太郎(豊川)
- ③池田 昌雄(春日井)
- ④坂田 朋花(西尾)
- ⑤吉居 駿恭(田原)
- ⑥杉田 晃大(岡崎)
- ⑦万代 美幸(刈谷)
- ⑧藤中 佑美(豊田)
- ⑨森木 優摩(日進)

町村の部

- ①山川 紗季(幸田)
- ②倉淵 大輔(設楽)
- ③近藤 直樹(阿久比)
- ④岡田なのは(阿久比)
- ⑤木口 瑞貴(美浜)
- ⑥山崎 叶夢(幸田)
- ⑦竹内麻里子(阿久比)
- ⑧村上 弓月(東郷)
- ⑨植田 陽平(武豊)

モリコロ賞

市の部

順位	チーム	昨年度順位	今年度順位	上昇順位	タイム
1	犬山	30	16	14	1.36.52
2	長久手	33	20	13	1.38.47
3	新城	31	21	10	1.38.48

町村の部

順位	チーム	昨年度順位	今年度順位	上昇順位	タイム
1	扶桑	13	8	5	1.46.06
2	阿久比	4	1	3	1.35.33
	飛鳥	12	9	3	1.46.13

第79回東海学生駅伝対校選手権大会

2017年12月9日(土) コース: 知多半島一周 7区間63.5km

男子成績(本県分のみ)

2 愛工大A 3.20.18 6 中京大 3.26.27
 3 名大A 3.22.46 7 東海学園大 3.29.15
 5 至学館大 3.25.42 8 愛教大 3.29.24

区間賞 2区 松井駿佑(愛工大A) 31.19
 3区 岸田裕也(名大A) 24.23 区間新

第11回東海学生女子駅伝対校選手権大会

2017年12月4日(月) コース: 知多半島半周 5区間26.6km

女子成績(本県分のみ)

1 名城大A 1.27.53
 (徳永香子・小森星七・赤坂よもぎ・松浦佳南・加世田梨花)
 2 中京大 1.31.43 4 至学館大 1.37.56
 3 東海学園大 1.35.36 5 愛教大 1.38.16

区間賞 1区 徳永香子(名城大A) 11.49
 2区 小森星七(名城大A) 13.41
 3区 赤坂よもぎ(名城大A) 19.08
 4区 松浦佳南(名城大A) 16.15
 5区 加世田梨花(名城大A) 27.00

2017年駅伝カーニバル

2017年12月10日(日) 愛・地球博記念公園3km周回コース

成績

男子一般(5区間21km)

1 名古屋大 1.08.44
 (浮津照也・塚本亮司・一林 諒・清水貴也・和田慎太郎)
 2 東海学園大 1.11.18

区間賞 1区 浮津照也(名古屋大) 19.52
 2区 塚本亮司(名古屋大) 19.16
 3区 一林 諒(名古屋大) 9.37
 4区 清水貴也(名古屋大) 9.58
 5区 和田慎太郎(名古屋大) 10.01

男子高校(5区間21km)

1 名経大高蔵 1.07.34
 (一瀬達也・伊神 航・竹内嘉希・清水透吾・高橋登也)
 2 豊橋南 1.08.56 5 岡崎工 1.12.53
 3 豊明 1.10.00 6 西春 1.13.31
 4 豊橋工 1.10.13

区間賞 1区 一瀬達也(名経大高蔵) 19.30
 2区 柴田翔太(豊橋南) 18.57
 3区 竹内嘉希(名経大高蔵) 9.28
 川嶋拓弥(岡崎工) //
 4区 清水透吾(名経大高蔵) 9.32
 5区 高橋登也(名経大高蔵) 9.19

女子一般高校 (4区間 15km)

1	岡崎北高 A	57.14		
(浦野真由・兵藤柚花・原田茉琴・駿河 萌)				
2	西春高	58.20	5	聖霊高 59.31
3	豊橋南高	58.45	6	名古屋市立大 1.01.04
4	横須賀高	59.04		

区間賞	1区	浦野真由 (岡崎北高 A)	23.00
	2区	兵藤柚花 (岡崎北高 A)	11.07
	3区	原田茉琴 (岡崎北高 A)	11.20
	4区	白石葉菜 (西春高)	11.37

男子中学 (4区間 12km)

1	竜海 A	39.46		
(池田裕幸・小田亮太・奥谷元登・鈴木仁都)				
2	竜海 B	40.22	5	城北 A 40.36
3	岡崎南 A	40.24	6	新香山 A 40.47
4	翔南 A	40.30		

区間賞	1区	後藤謙昌 (翔南 A)	9.27
	2区	小林亮太 (竜海 B)	9.29
	3区	片山宗哉 (城北 A)	9.27
	4区	鈴木仁都 (竜海 A)	9.58

女子中学 (4区間 12km)

1	矢作 A	44.02		
(竹田実紗・杉浦花音・磯部早良・純浦美桜)				
2	新香山 A	44.46	5	矢作 B 46.08
3	SQUAD-TAKUYA	45.02	6	六ツ美 A 46.09
4	矢作北 A	46.02		

区間賞	1区	山川紗季 (SQUAD-TAKUYA)	10.55
	2区	杉浦花音 (矢作 A)	10.49
	3区	磯部早良 (矢作 A)	10.57
	4区	森 優希 (新香山 A)	11.03

第25回全国中学校駅伝大会

2017年12月17日(日)
 希望が丘文化公園スポーツゾーン特設コース
 男子の部(6区間 18km) 女子の部(5区間 12km)

男子成績(本県分のみ)

第10位	田原市立東部	58.47
(吉居駿恭・鈴木大輔・高橋洋也・西田太郎・寺田愛基・白井勇佑)		

女子成績(本県分のみ)

第23位	一宮市立中部	43.46
(児玉綺亜羅・横田十彩・蔵 芽生・丸富風紗・坂川恋露)		

第37回全日本実業団対抗女子駅伝

2017年11月26日(日)
 松島町文化観光交流館前~弘進ゴムアスリートパーク仙台(宮城コース)
 (6区間 42.195km)

成績(本県分のみ)

第9位	豊田自動織機	2.20.00
(菅野七虹・藪下明音・福田有以・アン カリンジ・沼田未知・林田みさき)		

第29回全国高校駅伝(女子)

2017年12月24日(日)
 西京極運動公園陸上競技場 5区間 21.0975km

成績(本県分のみ)

11位	光ヶ丘女	1.09.36
(藤中佑美・山本有真・津野 優・稲吉 椿・鈴木純菜)		

第68回全国高校駅伝(男子)

2017年12月24日(日)
 西京極運動公園陸上競技場 7区間 42.195km

成績(本県分のみ)

17位	豊川	2.07.30
(柏 優吾・岩城亮介・鈴木雄太・柳本匡哉・永田一輝・鈴木竜太郎・伊藤聡汰)		

第49回元旦競歩・長距離競技会

平成30年1月1日(月) パロマ瑞穂スタジアム・付設長距離競歩路

成績

一般男子 20km 競歩

1	尾崎 雄大 (トヨタ自動車)	1.52.45
2	川村 渉 (高知大)	1.53.08
3	山田 佳人 (ぬまちゃんず)	1.58.44

一般男子 10km 競歩

1	山田 華生 (南山大)	46.48
2	中尾 圭 (愛知マスターズ)	56.17

高校男子 10km 競歩

1	梅本 崇弘 (明和)	45.14
2	大島 涼賀 (一宮)	46.40
3	中島 伶 (刈谷)	48.55

一般女子 10km 競歩

1	中川 晴子 (名古屋大)	52.19
2	川邊のぞみ (名古屋大)	54.55
3	島田 真優 (岩手大)	56.07

高校女子 10km 競歩

1	川部寿々実 (済美)	55.12
2	三反田ありさ (済美)	1.00.35

高校女子 5km 競歩

1	稲垣あかり (西春)	27.04
---	------------	-------

陸上競技場めぐり⑫

豊橋陸上競技場の歩み

1 誕生秘話 (1949年)

豊橋陸上競技場の歴史を振り返ってみると、昭和23年9月、第1回豊橋陸上競技選手権大会が東田^{あずまだ}グラウンドで開催された折、東三河(豊橋)に本格的な400mトラックを有する陸上競技場を建設しようという機運が高まり、豊橋陸上競技協会会員が労力奉仕の申し入れをする等の意気込みと熱い思いのなか、昭和24年11月に豊橋市営陸上競技場(現、豊橋陸上競技場)が八町練兵場跡地(現在の豊橋市今橋町)に完成した。

当時、開場記念として第1回秩父宮賜杯、一般対学生対抗陸上競技大会が高松宮妃殿下をお迎えして開催されている。また、昭和25年4月に新装なった豊橋市営陸上競技場において特殊種目競技会が行なわれ、1時間走に当時の日本新記録が樹立されたと「東三河支部のあゆみ」(平成11年5月発刊)にある。

2 全天候型豊橋陸上競技場の誕生 (1996年)

建設から50年の月日が流れ、豊橋陸上競技場もスタンドの老朽化が激しく、1階の本部は大会運営には狭く、雨漏りがする等不便さを感じていた。また、全国に次々と全天候型トラックが誕生し、魔法のジュウタンとして好記録が続々と登場したこともあり、「豊橋陸上競技場を本格的な400m全天候型トラックに！」の機運が高まり、建設は陸上競技関係者の悲願となった。

その後、当時の東三河支部長牧田 功氏、副支部長の兵道政明氏両氏による数年にわたる市への働き掛けが実を結び、待望の400mトラックとフィールドの一部が全天候型に改修され、全天候型豊橋陸上競技場が平成8年3月に完成した。豊橋陸上競技場は、バルセロナオリンピック会場と同じ素材でできており、色鮮やかなブルーは、当時の陸上関係者と陸上ファンに驚きと感激をもたらしていた。このブルーのトラックは、日本においては珍しく、全国で3番目の陸上競技場として注目され、東三河地区の陸上競技のメッカとして、新たなスタートを切ることになった。

しかしながら、昭和24年11月に建設されたスタンドは老朽化が進み、スタンドの新設・フィールド内の芝生化・Aピットのタータン化・跳躍ピットの3レーン化・場内にクロスカントリーコース設置・トレーニングルーム等の構想は実現に至らず、陸上競技関係者に課題を残していた。

3 選手目線の豊橋陸上競技場誕生 (2018年)

長年にわたる陸上関係者の地道なロビー活動と豊橋出身アスリートたちの全国大会・世界大会・オリンピックでの大活躍ならびに豊橋市民のご支援を得て、平成28年度に陸上関係者の悲願であったスタンドの改修が認められた。これにより課題として残っていたほぼ全ての懸案が解消され、平成30年3月に竣工した。

ここに、選手目線に立った第3種陸上競技場としては、日本一の施設と自負できる豊橋陸上競技場が誕生する運びとなった。

～ スタンド・競技場の主な概要 ～

1 3階建てスタンド

- (1) 2F・3F 1500名収容観客席
椅子500・ベンチ1000
- (2) 3F 放送室
- (3) 3F 写真判定室
- (4) 2F 雨天練習走路
長さ110m 3レーン(タータン)

2 スタンド下1階

- (1) ストレッチルーム
- (2) コンディショニングルーム

①低酸素室

- ・酸素摂取能力の向上
- ・無機的酸素能力の向上
- ・高地トレーニングと同様の受動効果 が期待される

②各種トレーニング器具

- ・スプリントトレーニングマシン(認知動作型) 2台 ・スプリントパワーバイク 1台
- ・高速トレッドミル(36km/h迄) 2台 ・低速トレッドミル(20km/h迄) 2台
- ・アニマルウオークマシン 1台 ・ベッド移動式大腰筋トレーニングマシン 1台
- ・立位動作型深筋トレーニングマシン 1台 ・球底型体深筋ストレッチ(大股渡り) 1台

③アイシング&ホットバス(フットバス) 1台 5名~6名

3 フィールド内全面天然芝生張り 約100m×約70m

4 Aピットのタータン化と投擲場整備

- ・走高跳ピット ・やり投ピット ・砲丸投ピット

5 クロスカントリーコース

- ・1周 560m アップダウンコース ・一部ウッドチップ ⇒ 一部タータン



スタンドの完成予想図(豊橋市提供)

(夏目 輝久)

- 2 社本 莉沙 (西春) 27.29
- 3 柴田 葵 (安城) 28.11

男子 10000m

- 1 本田 雄生 (東北大) 33.05.79 GR
- 2 池亀 透 (名古屋大) 33.59.53
- 3 山内 康平 (ぬまちゃんず) 34.11.60

高校男子 10000m

- 1 河村 悠 (豊明) 32.33.20
- 2 原田 翼 (豊明) 33.39.11
- 3 深谷 涼太 (豊明) 33.42.85

中学男子 3000m

- 1 浅野 龍毅 (愛知陸協) 9.35.00
- 2 阿知和優汰 (愛知陸協) 9.38.71
- 3 田中 登馬 (愛知陸協) 9.51.80

女子 10000m

- 1 中山 淳子 (愛教大ク名) 43.59.83

高校女子 10000m

- 1 堀 明日香 (済美) 39.04.36
- 2 中島 暖乃 (済美) 40.03.28
- 3 近藤 もえ (済美) 41.18.06

中学女子 3000m

- 1 田中梨咲子 (愛知陸協) 12.09.92

第7区	4km	山本 有真	光ヶ丘女高	12.38	2位	12位
第8区	3km	渡辺 萌梨	六ツ美北中	10.15	7位	11位
第9区	10km	鷺見 梓沙	エニルエニルエニルエニル	31.52	4位	8位

F: ふるさと選手

第23回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会
2017年1月21日(日) 広島市平和記念公園前発着
7区間 48.0km

総合 愛知 18位 2.22.54

区間 (距離)	選手	所属	時間	区間成績	通過順位
第1区 7km	柳本 匡哉	豊川高	20.34	20位	20位
第2区 3km	吉居 駿恭	田原東部中	8.44	17位	20位
第3区 8.5km	山口 浩勢	愛三工業	24.15	7位	14位
第4区 5km	岩城 亮介	豊川高	15.03	24位	15位
第5区 8.5km	近藤幸太郎	豊川工高	26.26	36位	22位
第6区 3km	鶴飼 雄矢	一宮南部中	9.22	29位	22位
第7区 13km	山藤 篤司	神奈川大	38.30	10位	18位

第7回愛知競歩競技会
2018年2月17日(土) 知多運動公園陸上競技場

成績 (太字は愛知登録)

一般・高校男子 5000m 競歩

- 1 川添 康平 (三重陸協) 22.25.28
- 2 平松 徹也 (安城高) 24.40.50
- 3 小林 剛之 (満天クラブ) 24.51.04

一般・高校女子 5000m 競歩

- 1 稲垣あかり (西春高) 26.31.13
- 2 柴田 葵 (安城高) 28.08.74
- 3 坂本 絢南 (豊明高) 29.24.58

一般・高校男子 10000m 競歩

- 1 江藤 慎改 (至学館大) 46.10.19
- 2 後藤 潤平 (東京陸協) 47.15.33
- 3 熊澤 一誠 (至学館大) 47.16.97

一般・高校女子 10000m 競歩

- 1 榎田 恵 (至学館大) 55.43.61
- 2 大野 綾音 (至学館大) 59.29.66

第62回全日本実業団駅伝

2018年1月1日(日) 群馬県庁発着 7区間 100.0km

成績 (本県分のみ)

- 第3位 トヨタ自動車 4.54.39
- 第10位 愛三工業 4.59.17
- 第13位 愛知製鋼 4.59.43
- 第25位 トヨタ紡織 5.03.02
- 第29位 中央発條 5.04.15
- 第32位 トーエネック 5.06.28

区間賞 7区 早川 翼 (トヨタ自動車) 47.12

第36回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会

2018年1月14日(日) 京都西京極陸上競技場発着
9区間 42.195km

総合 愛知 8位 (9年連続入賞) 2.17.44

区間 (距離)	選手	所属	時間	区間成績	通過順位
第1区 6km	伊澤菜々花	エニルエニルエニルエニル	20.05	32位	32位
第2区 4km	藤中 佑美	光ヶ丘女高	12.47	6位	20位
第3区 3km	太田 帆香	布袋中	9.42	15位	16位
第4区 4km	古川 璃音	豊川高	13.26	13位	13位
第5区 4.1075km	山本 彩乃	小島プレス	13.26	10位	11位
第6区 4.0875km	川口 桃佳	豊田自動織機	13.33	20位	13位

第40回読売犬山ハーフマラソン

2018年2月25日(日) 公認犬山ハーフマラソンコース

(写真提供: 読売新聞社)



1位でゴールする渡部選手(愛知電機) 犬山城のふもとを力走

2月25日に記念すべき第40回大会が、内田防災公園発着でハーフ・10Kmの部あわせて9087人が出場し、8548人が完走しました。ハーフマラソンは浅井峻雅選手(東洋大学)が、同女子は渡部絵理選手(愛知電機)が優勝しました。また、10Kmに高校生団体の部が新設されました。

40回連続出場の谷喜久郎さんが特別表彰されました。

大会成績結果(太字は愛知登録)

登録ハーフ男子

1	浅井 峻雅(東洋大学)	1.04.44
2	中西 玄気(愛三工業)	1.05.06
3	井上 錬(SGHグループ)	1.05.16
4	坂田 昌駿(中央発條)	1.05.25
5	湯田 晟旭(トーエネック)	1.05.31
6	濱野 秀(トヨタ紡織)	1.05.41

登録ハーフ女子

1	渡部 絵理(愛知電機)	1.16.30
2	神谷 もも(愛知教育大学)	1.18.30
3	服部 綾実(名大倶楽部)	1.18.50
4	小田切亜希(竹村製作所)	1.18.54
5	浅野 里奈(愛知電機)	1.19.39
6	五島 汐梨(愛知教育大学)	1.20.09

登録10km男子

1	竹内 楓(NTN)	30.03
2	小川雄一朗(NTN)	30.09
3	藤井 正斗(名経大高蔵高校)	30.10
4	中倉 啓敦(愛知高校)	30.39
5	中洞 将(中京学院大中京高校)	30.44
6	小川 和也(中央発條)	30.53

登録10km女子

1	杉浦穂乃加(中京大学)	34.10
2	山本 彩乃(小島プレス)	34.20
3	小森 星七(名城大学)	34.56
4	絹野 紗月(日本体育大学)	35.02
5	白田 彩花(長野東高校)	35.06
6	松浦 佳南(名城大学)	35.39

高校生団体男子(愛知県分)

1	愛知	1.32.44
2	名経大高蔵	1.33.19
4	中京大中京	1.36.25

高校生団体女子(愛知県分)

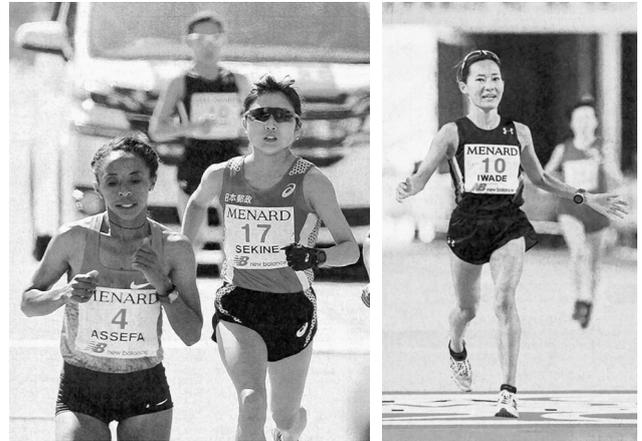
2 愛知

1.49.24

名古屋ウィメンズマラソン

2018年3月11日(日) ナゴヤドーム発着

(写真提供: 中日新聞社)



激走する関根選手

粘った岩出選手

開催7回目の女子だけのマラソンが21915人の出走で行なわれました。2018アジア大会の選手選考会を兼ね、さらに、注目の東京オリンピック日本代表選手選考競技会(MGC)出場権獲得をめざして熱戦が繰り広げられました。絶好の天気と沿道の熱い声援を受けて、初マラソン歴代4位となる地元出身の関根花観選手(JP日本郵政グループ)と岩出玲亜選手(ドーム)、さらに野上恵子選手(十八銀行)の3人が出場権を獲得しました。ホイールチェアマラソン(クォーター)に加え、名古屋シティマラソンのハーフ・クォーターの部も同時開催され14946人が走り、大変盛り上がった大会となりました。東日本大震災当日を思い、あちらこちらで黙祷する姿が印象的でした。関係者に深く感謝いたします。

ウィメンズマラソン(エリートの部)

1	メスケレム・アセファ(エチオピア)	2.21.45
2	バラリー・ジェメリ(ケニア)	2.22.48
3	関根 花観(JP日本郵政グループ)	2.23.07
4	岩出 玲亜(ドーム)	2.26.28
5	野上 恵子(十八銀行)	2.26.33
6	田中 華絵(資生堂)	2.27.40
7	メリマ・モハメド(バーレーン)	2.27.41
8	小原 怜(天満屋)	2.27.44

ホイールチェアマラソン(クォーター)

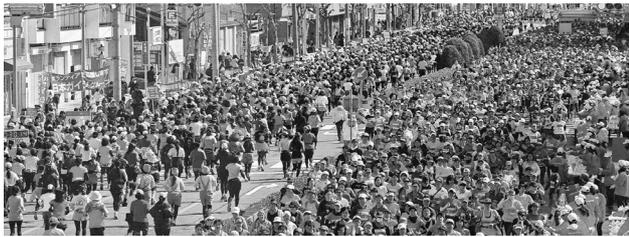
1	喜納 翼	25.52
2	小西 恵子	30.58
3	田中 照代	36.11

愛知選手権女子マラソン

2018年3月11日(日) ナゴヤドーム発着

1	沼田 未知(豊田自動織機)	2.30.07
2	中村 瑠花(小島プレス)	2.38.32
3	久保百合香(中京大)	2.49.02
4	河村奈津紀(トヨタSC)	2.51.26

- 5 服部 綾実 (名大倶楽部) 2.52.10
- 6 米谷 利佳 (庄内 RT) 3.04.26



今年もギネス更新

名古屋シティマラソン
2018年3月11日(日) ナゴヤドーム発

ハーフ男子	1	酒井 一	1.07.39
	2	木下 雅裕	1.09.57
	3	藤永 紘基	1.10.02
クォーター男子	1	辰巳 慶宏	33.09
	2	友井 悠人	33.15
	3	木場 雄大	33.56
ハーフ女子	1	Reid Lauren	1.14.53
	2	近藤かすみ	1.21.57
	3	佐藤あずさ	1.22.07
クォーター女子	1	垣津 奈美	40.35
	2	間瀬 彩奈	41.01
	3	小林 瑞樹	43.24

投 稿

ウルトラランナーによるタスキリレー

100km・24時間走 元日本代表
井上 真悟



正月の風物詩として多くの人を楽しみにしている箱根駅伝は、日本の「マラソンの父」と呼ばれた金栗四三さんの「日本人によるタスキリレーで北米大陸を横断することができたら、世界の度肝を抜けるに違いない」という発想のもと、大陸横断駅伝の選手選考会として1920年に開催されたものでした。生誕から一世紀が経とうとする現代においても、未だ誰も成し遂げていないアメリカ大陸横断駅伝を実現するための活動のなかで、私は愛知県在住の2人のウルトラランナーに出逢いました。

1人目は、教員として名古屋市内の小学校に勤めながら日々の通勤ランニングで身体をつくり、ウルトラマラソンで世界の舞台へ挑みつづけてきた高田由基選手です。国際ウルトラランナーズ協会が認定する公式種目には、50km、100km、24時間走がありますが、高田選手はその中でもっともポピュラーな100kmに絞った競技活動に取り組み、日本代表選手として過去6回、世界大会を経験しています。代表キャプテンを務めた2016年スペイン世界大会では、トレーニング期から率先してチームの士気を高めるための合宿を行ない、チームジャパンを悲願の団体戦アベツ

ク入賞へと導きました。

もう1人は、名古屋市在住の兼松藍子選手。主婦業のかたわら月間で最高1500kmもの走り込みを行ない、高田選手と共に2016年世界大会で団体戦メダル獲得に貢献したランナーです。全国で人気の大会が多い100kmとは異なり、24時間走は未だに日本国内での認知度の低い競技ですが、昨年11月に東京で開催された国内唯一の代表選考会へ兼松選手が初出場し、見事に優勝を飾ったことは業界内での話題となりました。

非日常的な負担を肉体に強いることになるこれらウルトラマラソンにおいて、系統だったトレーニング論はまだまだ確立されていません。しかし、トップ選手が成果を出すために培ってきた考え方を学べる場があれば、これからチャレンジしようとする市民ランナーの事故やトラブルを未然に防ぎ、この競技に情熱を燃やす選手たちにもヒントを投げかけられるのではないかと考え、私たちは昨年から過去の日本代表選手たちで協力しあいウルトラアカデミーというセミナーイベントを行なってきました。中でも、分かりやすく笑いに包まれた雰囲気の中でウルトラマラソン攻略のポイントを伝えてゆく高田選手や、どんなに苦しいレースでも笑顔で乗り越えその魅力を広めている兼松選手の存在は、過酷なこの競技に真剣に取り組むことが人間的な成長につながり、人生をより豊かにしてゆくことを示しているように感じます。



セミナー中の高田選手

今もまだ、アメリカ大陸横断駅伝は世界中の誰も成し遂げていませんが、駅伝の本質的な価値観はスポーツの枠を超えて社会活動のなかで私たち大人に求められる考え方です。日本のマラソン創世記から残されているこの壮大な課題に取り組みながら試行錯誤する中で、トップ選手たちで力を合わせながらウルトラマラソンに夢を見る次の世代へのタスキリレーを果たしてゆきたいと思っています。

※井上真悟選手 (広報委員会補足)

- ・生年月日：1980年9月27日 (37歳)
- ・身長：177cm

東京都八王子市出身の日本の陸上・ウルトラマラソン選手。2010年、IAU公認24時間走世界選手権に日本代表として出場し、大会新記録・ロードアジア新記録となる273.708kmを走り、20代初のワールドチャンピオンとなる。

トピックス

2018 愛知パラ陸上競技フェスティバル

・開催目的

障がい者の陸上競技における競技力向上を図るため、国際規則に則った競技会を開催することで、愛知県の陸上競技への志向意欲をより高めるとともに、パラリンピック競技の普及と理解、スポーツを楽しめる環境作りを目指す。

・期日：平成30年5月27日(日)

雨天の場合でも実施します。

・会場：いちい信金スポーツセンター

(愛知県一宮総合運動場陸上競技場)

〒491-0804 愛知県一宮市千秋町佐野字向農756

・実施種目：100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、4×100mR、4×400mR、4×100m Mix リレー

・体験コーナーの実施：

- (1) レーサーやレース用義足の体験コーナーを設置する
- (2) 鍼灸師会の協力の下、トレーナーブースを設置する。

今年愛知パラ陸上競技協会が発足し、県内で初めての競技会を開催することとなりました。視覚障害や四肢欠損による義手・義足、知的障害や低身長、車椅子などの選手が参加予定です。(柴田 達也)

理事会等会議報告

○12月理事会 29年12月5日(火) 18:00 教育会館

1 協議事項

- ①全国都道府県対抗女子駅伝・男子駅伝の選手選考について
- ②各種栄章候補者について
- ③愛知県体育協会被表彰者について
- ④審判員昇格候補者について
- ⑤来年度からの登録について
- ⑥その他

2 報告事項

- ①平成30年度日本陸連主要競技会について
- ②各種大会結果報告
- ③陸連関係会議報告
 - ・理事会
 - ・全国区域技術役員会議
 - ・全国強化責任者会議
 - ・全国普及育成担当者会議
- ④各専門委員会報告
- ⑤その他

○1月理事会 30年1月26日(金) 18:00 教育会館

1 協議事項

- ①平成30年度年間競技日程について
- ②その他

2 報告事項

- ①マラソンフェスティバルについて
- ②読売犬山ハーフマラソンについて
- ③スペシャルオリンピック大会について

④各専門委員会報告

⑤各関係団体からの報告

⑥その他

○2月理事会 30年2月19日(月) 18:00 教育会館

1 協議事項

- ①平成30年度年間競技日程について
- ②その他

2 報告事項

- ①マラソンフェスティバルについて
- ②読売犬山ハーフマラソンについて
- ③各専門委員会報告
- ④各関係団体からの報告
- ⑤その他

(水野 隆夫)

栄 章

おめでとうございます

平成29年度愛知県体育協会表彰

日時 平成30年3月15日(木) 午後3時30分

場所 ウィルあいち(愛知県女性総合センター)

・功労賞

兵藤 重二 飯田日出男

・優秀選手賞

(国際競技会優秀成績)

丸尾 知司 市川 華葉 山口 浩勢

及川 文隆 井戸アビゲイル風果

(国民体育大会優勝)

湯上 剛輝

(日本選手権大会等優勝)

山本 聖途 吉津 拓歩

(水野 隆夫)

お く や み

長年本県の陸上競技の発展のため、多大なるご尽力をいただきましてありがとうございました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略)

逝去者氏名 逝去年月 支部名

萬谷 康幸 29・8 尾 張

内藤 義光 30・1 尾 張

編 集 後 記

◇名古屋ウィメンズマラソンはすっかり春の風物詩となった。地元の応援を受け熱戦を展開した関根選手や岩出選手のMGCでの活躍が期待される。◇新しいトラックシーズンも協会あげて選手の挑戦を支えたい。◇寄稿に感謝。

編 集 委 員

大西 敏功 小坂 拓 鈴木人呂信 竹前 正直
茶谷 和彦 新見 精三 野口 一昭 山下ゆかり
横田小百合